台風・大雨・風水害

７月上・中旬

各作物共通

１　事前対策

　海岸に接した水田では、台風の通過が満潮時になる場合に、高潮で海水が逆流するおそれがあるので、水門の管理には万全を期する。

２　事後対策

1)海岸近くで海水の浸冠水があった場合、直ちに排水させた後、淡水の掛け流しに努める。
　また、潮風を受けたものは、速やかに淡水を散布して、塩分を洗い流す。

2)塩害対策については別フォルダ塩　害の**「農地への海水の流入が農作物に及ぼす影響とその対策」**を参照する。

３　人命第一の観点から、ほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が治まるまでは行わない。また、大雨が治まった後の見回りにおいても、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、足下等、ほ場周辺の安全に十分に注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行うようにする。

水　稲

１　事前対策

1)台風通過時には、早期栽培では倒伏防止と水分蒸散による稲体水分の補給のため、できるだけ深水に保つ。普通期栽培では、冠水しない程度の深水とする。

２　台風通過後の対策

1)潮風害を受けたものは、24 時間以内に淡水を散布し、洗い流すのがよい。

2)強い風雨によって茎葉に損傷を受けた稲は、以後、一時的に蒸散作用が旺盛となるため、台風通過後も土壌水分の保持に努める。

3)普通期栽培の稲では冠水しないよう、適正な水深を保つ。

3)病害虫の発生に注意し、特にいもち病が発生した場合は早急に防除を行う。

大　豆

１　事前対策

1)本葉が２枚以上に達している大豆では中耕培土を行う。これにより強風による倒伏や折損の防止、さらに排水を促し、滞水による根腐れが防止できる。

2)迅速に排水するため、排水路の点検、整備、清掃をしておく。

２　台風通過後の対策

1)迅速な排水に努める。

2)中耕培土ができていないほ地では、土壌が乾き次第、株を立て直すように土寄せを行う。

茶

１　事前対策

1)茶は滞水により根腐れを生じやすいので、迅速な排水ができるよう、排水路の点検、整備、清掃を行う。

2)幼木園では、強風によって茶樹が揺すられて断根したり、根元の土壌がすり鉢状にえぐられて乾燥するなどの現象を防ぐため、ネット等の資材で固定する。

２　台風通過後の対策

　一番茶後の中切り更新処理時期と三番茶の萌芽期から開葉期にあたるため、通過後は温度の上昇による、カンザワハダニやチャノミドリヒメヨコバイ等の害虫の発生や、炭疽病、輪斑病の発生も助長されることから、病害虫の防除に努める。

野　菜

1　事前対策

1)ミニトマト、イチゴ等の施設野菜のハウスはビニールを下げ、ハウスバンドの締め直し(特に、妻面近くのバンド)等により、補強する。特に、妻面に近い部分は、ハウスバンドを追加したり、防風ネットなどで押さえると良い。また、換気扇を稼動できる場合は、吸気口を１～２か所程度ふさぎ（吸気口は全てはふさがない)、換気扇を稼動し、ハウス内気圧を外気より少し低くすることによりビニールのバタツキを抑えることができる。

2)バンドレスのビニールハウスにおいても展張用補助バンドを用い、バタツキ防止と補強を行う。

3)露地野菜のうちナス、ピーマン、キュウリ等は支柱を補強するとともに、防風ネットを設置する。青ネギ等の軟弱野菜では、ほ場周りに防風ネットを設置する。栽培面積の大きいほ場では数畝毎に防風ネットを設置すると横風に対応する効果が高い。

4)出荷できるもの（Ｓサイズを含む）は、できるだけ収穫し、台風通過後のキズ等による下級品、出荷できないものの減少と着果負担軽減に努める。

5)ほ場内の溝、ほ場周りの排水溝を点検、整備等を行う。また、水路等から水が入りやすいほ場は、事前に、土嚢等を積んでほ場に水が入らないよう堤防を作っておくとよい。

6)露地野菜を予定しているほ場では、降雨前は、ほ場全体の耕うんはせず（耕うんすると土壌に水を含み一層乾きにくくなる)、排水溝を設置して（約５ｍおきの溝、ほ場周りの溝、落とし口とつなぐ溝等）積極的な排水対策を行う。ただし、作業機で練らないように注意する。落とし口周辺だけでも溝を掘ると排水しやすくなる。

2　台風通過後の対策

1)溝に水が長時間たまると根腐れが発生しやすくなるので、できるだけ早く、溝にたまった水を排水する。

2)施設野菜（ミニトマト、イチゴ等）は、急激な根の水分変化に野菜が対応できないため、台風通過後、極端な萎れが発生する。このため通過後、速やかに施設内の温度が高温にならないようサイドや谷を開放し（風がある場合は風上を少し、風下は全開)、適正なかん水、遮光ネットの被覆等を行う。施設開放が遅れ、ハウス内が高温になっている場合は、一度に開放しない。この状態で開放すると、生長点や葉から急激な蒸散がおこり葉や芯に焼けが発生しやすくなる。このような障害の回避対策として、ハウス内湿度を上げるためかん水を行ったり、動噴等で水を噴霧した後、風下サイドから徐々に開放する。

3)露地野菜は茎葉に付着した土を洗い流す。また、草勢回復のため、早めに被害果等の除去や収穫により、着果負担を軽くし、整枝、誘引、支柱直しを行い、葉面散布剤を散布する。

4)被害拡大防止のため、早期に病葉や病株を除去し、ほ場外へ搬出することも重要である。そして、茎葉の傷口から病害が発生するので、早期に防除暦、防除指針に従い、殺菌剤の適期防除に努める。降雨後は、葉や茎が軟らかく、薬害が発生しやすいので、基準濃度の範囲の薄い濃度（例：2,000～3,000 倍の場合、3,000 倍）で散布する等、注意して薬剤散布を行う。

5)野菜のほ場準備のため、排水溝を設置して、ほ場の乾燥に努める。ほ場に入りにくい場合は、落とし口周辺だけでも溝を掘ると排水しやすくなる。

果　樹・オリーブ

1　事前対策

1)モモ、ブドウなどで成熟期に達している果実は事前に収穫する。

2)棚や防風ネット、ハウスの補強を事前に行う。

3)迅速な排水を図るため、排水路の点検、整備、清掃をしておく。

2　台風通過後の対策

1)倒伏した樹は、速やかに立て直して支柱を行い、根際に土を入れて固める。
また、被害の状況に応じて枝葉を剪定する。

2)枝が損傷した場合は、裂けた枝は切り直し、接ぎろうを塗って保護する。落葉の激しい場合は、枝幹部に白塗剤を塗布する。

3)風台風により潮風を受けた場合は速やかに（６時間以内）樹冠かん水を行い、塩分を洗い流す。

4)下記の病害が発生しやすくなるので、必要に応じて防除を行う。
柑橘類‥‥‥‥‥黒点病、かいよう病（中晩柑）

カ　キ‥‥‥‥‥炭疽病
ブドウ‥‥‥‥‥べと病
キウイフルーツ‥果実軟腐病
オリーブ‥‥‥‥炭疽病
※　防除はいずれも、農薬のラベルに記載されている使用方法を遵守すること。

花　き

1　事前対策

1)露地栽培では、ほ場の周りに排水溝を掘り、余剰水を排水する。収穫を控えたヒマワリ、盆収穫に向けた小ギク等は草丈も高く倒れやすくなっているものもあるので、支柱の補強を行う。

2)施設栽培では、ハウスの周りに排水溝を設け、水の浸入を防ぐ。

3)ハウスやほ場の周りに防風ネットを設置する。また、フラワーネットを早めに張り、株の倒伏を防止する。

4)ビニールハウス等の施設栽培では、ハウスを閉め、強風の吹き込みを防ぐ。また、ハウスバンドの締め直しを行い、ビニールのバタツキによる破損を防止する。

2　台風通過後の対策

1) 施設内の温度が高温にならないよう、通過後は速やかにサイドや谷を開放し（風がある場合は風上を少し、風下は全開）、適正なかん水、遮光ネットの被覆等を行う。

2)倒伏した茎は風が収まり次第、できるだけ早く起こし、殺菌剤の散布を行い、茎曲がりの発生と病気の蔓延を防止する。

3)茎葉に付着した土は、速やかに洗い落とす。

4)滞水すると、根の活性が低下し、養分吸収が悪くなるので、1000倍程度の液肥の葉面散布を２～３回実施し、生育の促進に努める。

畜　産

1　事前対策

1)畜舎や堆肥舎は、風雨に対する補強と周辺水路の整備等を実施し、損壊防止に努める。
また、家畜ふん尿の流出防止のため、堆積場所の移動等により対応する。

2)搾乳施設等については、停電時の対応策として発電機の手配等を行う。

3)飼料畑は、排水路の点検、整備を行い、早期の雨水排出に心掛ける。

2　台風通過後の対策

1)畜舎や堆肥舎が浸水した場合には、通風、換気等によって乾燥を促進し、家畜ふん尿等による汚染防止に努める。
また、畜舎消毒等によって疾病の発生が予防できるよう心掛ける。

2)へい死した家畜については、最寄りの家畜保健衛生所および農業共済組合と連携して適切な処理を行う。

3)飼料作物に湿害等が認められた場合は、畑の排水に努め、肥料分の流亡に対しては追肥等で補い、生育の早期改善に努める。